

いちのみやの芸術文化



- 特集 「苧安賀浅井氏と浅井星洲」
- 加入団体の紹介
- これからの催し
- 平成20年の展示をみる（一宮市博物館）

2009.3

第 8 号

一宮市芸術文化協会

瀑布猿之図(部分)

ICHINOMIYA Arts and Culture Association

一宮市には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

かり やす か あさ い し あさ い せい しゅう
苧安賀浅井氏と浅井星洲

**苧安賀城と
城主浅井新八郎・田宮丸**

苧安賀城は、戦国時代に織田信長の家臣・浅井新八郎によって築かれた城です。城は東西42間、南北32間ほどで内外二重の堀もあつたようです。現在、城のあつた場所は自動車教習場となつていますが、その傍らには「苧安賀城址」の碑が建つています。近年の発掘調査では、城の堀と考えられる



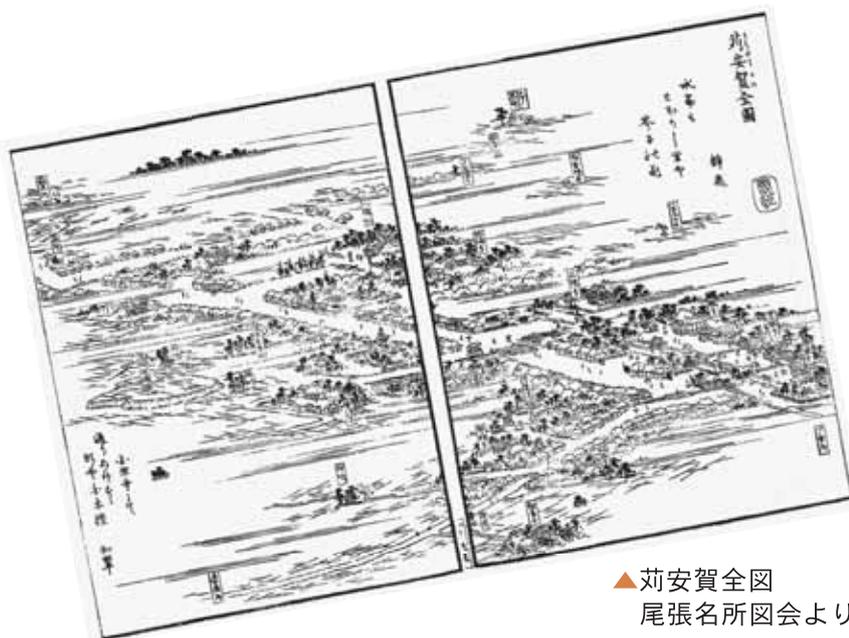
▶ 苧安賀城址碑（一宮市大和町）

遺構も発見されました。

浅井新八郎は諸説によれば、政澄・政貞・政高・賢政と名乗つたといひます。新八郎は、近江国小谷城主浅井久政の弟の子で、信長の家臣として近江国六角氏攻めや比叡山延暦寺の焼き討ち、長島の一向宗攻めなどに参加しました。

また、永禄2年（1559）岩倉城が落城した後、山内一豊が父盛豊の従弟である新八郎を頼つて一時期苧安賀城に身を寄せていたともいひます。

新八郎の子を田宮丸といひます。父の跡を継いで苧安賀城に居住し、織田信雄の家臣でした。しかし、天正12年（1584）3月、羽柴秀吉と対立した信雄によつて、秀吉との内通を疑われ、長島城で殺害されました。この時、田宮丸は16歳でした。



▲ 苧安賀全図
尾張名所図会より



荻安賀村浅井七左衛門家と 分家・勘兵衛家

江戸時代となり、田宮丸の弟は、幕臣となった者もありましたが、荻安賀村で帰農した者もあったようです。これが浅井七左衛門家といわれています。

七左衛門家の敷地内には、新八郎、田宮丸などの石塔が5本あったといえます。この石塔の一つには、新八郎の三男・新次郎後に浅井七左衛門正貞と名乗る者の石碑もありました。この正貞を七左衛門家では、元祖としています。その後、七左衛門家四代の子息である正知が分家をし、浅井勘兵衛家の初代となりました。勘兵衛家は、江戸時代中期以降、荻安賀村の庄屋として村政などに関わりました。



▲瀑布猿之図(一宮市博物館蔵)

その絵は御留筆といつて藩主の許可がなければ人の求めに応じて描くことを禁じたの絵が得意であったようで、その絵は御留筆といつて藩主の許可がなければ人の求めに応じて描くことを禁じ

浅井星洲

勘兵衛家の四代目として、天明8年(1788)に荻安賀村で生まれたのが、浅井星洲です。名を正永といい、京都に出て画を四条派ごしゆん呉春の門人・柴田義董ぎどうに学び、後に松村景文けいぶんに師事したといわれています。その後、各地を遊歴して腕をみがき、尾張藩主の招きで絵を描いたともいわれています。特に猿



▲枇杷親子猿之図(一宮市博物館蔵)

られていたともいいます。星洲が描く絵は、猿だけではありませんでした。ある史料によれば、「内裏雛

之図」、「蓮之図」、「雪中不二」などの絵を描いていたことがわかります。

文久2年(1862)10月7日、星洲は75歳で亡くなりました。その後、明治時代となり、ふるさとの荻安賀村に筆塚が建立されています。



▲浅井星洲翁筆塚

〔附記〕

本稿を作成するにあたり、関戸弘子氏並びに、一宮市立大和西小学校校長岩見田令子氏をはじめとする同校の方々に多大なるご協力、ご教示を得ました。末筆ながら、心からお礼を申し上げます。

〔参考文献〕

『新編一宮市史本文編上』、『愛知画家名鑑』、『一宮市博物館だより』第9号および第40号など

(一宮市博物館学芸員 坪内淳仁)

活けられた花は、その人の性格を表すと言われます。花は活けた人は勿論の事、眺めた人々にも美と安らぎを与えてくれます。

本会は、華道を通じ、円満なる人格の形成を最終目標に日々努力を重ねています。発足して50年を超え、200名以上の会員が所属する歴史と伝統のある団体だと自負しています。

活花は、人を思いやり、人を慈しむ心を大切にしながら、野の花は野にあるように活け、山の草木は山に自生するように活けます。つまり形より素生を重ねて活けます。そのような意味合いもあって、2月に研修旅行を行っています。自然の情景を心に刻み、活花にどう反映させるかと各々が考えながら参加しています。また、会員相互の親睦を深める大切な行事として続いていることは、言うまでもありません。

毎年、11月初旬に一宮市芸術祭参加の華道展を一宮スポーツ文化センターで開催しています。今回も先生方のご努力はもとより役員の方々の奉仕の精神によって2日間で1500名を超える入場者を迎えることができました。遠くは、滋賀県や岐阜

県の本巣郡北方町等多方面よりの入場者があり、誠に感謝しています。

しかし、この状態に満足することなく、更なる努力を重ね、一宮市の華道の普及と発展に今後も寄与して行きたいと思えます。私達も一宮華道連盟が更なる飛躍を遂げるよう微力ながら尽力する所存でございます。

熱意ある先生方の加入をお待ちいたしております。



◀華道普及のための市民華道体験

【問合せ先】安立 高明 ☎72-6773

私たちは、35年前、旧尾西市起で結成した歌謡舞踊のグループです。毎週水曜日、起のつどいの里で加賀あすか先生にご指導をしていただいています。メンバー全員が中高年のせい、時には腰が痛い、膝が痛いなどということもありますが、お稽古で皆の顔を見ると、不思議と元気がもらえます。歌謡舞踊は、誰もが知っている歌謡曲に振りが付いているので、覚えやすく、口ずさみながら習っていきます。気が付くと、踊りを覚えながら、いつしか歌えるようになっていきます。カラオケのレパートリーが増えていくのも楽しみのひとつです。まだまだ未熟ですが、何かのお役に立ちたいと、30年前からボランティア活動として、尾西芸能祭や一宮市社協尾西支部ふれあいの集いへの出演、また、地域の福祉施設の盆おどり大会への参加や慰問も続けています。緊張しつつも、一生懸

命踊りますと、たくさんの温かい拍手が返ってきます。

「また来てね」と言ってくださる笑顔が忘れられなくて、また次の慰問に向けて、お稽古にも熱が入ります。これからも、一人でも多くの方々に、あすか会を覚えていただけるよう、一層精進していきたいと思っています。



◀尾西芸能祭にて

【問合せ先】不破 務 ☎62-3023

尾西剣詩舞会は、100年余りの歴史ある神道一刀流の本部で剣詩舞を学んだ会員が、同志を募り発足させ、流派の伝統を受継ぎながら、年間の行事計画に沿って活動をしています。

一宮市芸術祭参加行事の尾西芸能祭や一宮市吟剣詩舞道大会に出演したり、文化祭、びさいまつり、あじさいまつり等の地域の行事を始め、尾張大会、全国青少年大会、コンクール等全国の吟剣詩舞を愛する方々との共演や親睦会に参加しています。

外国公演の折には、日本の歴史にゆかりのある演題で構成演舞し、お互いに披露し合うことで友好を深める役目を果たしました。また、福祉施設の慰問は、市内だけでなく、他市、他県に及びますが、会員手作りの艶やかな衣装を着て演舞することもあり、入居者の皆様に大変喜ばれて、会員もなごやかな時を過ごさせていただいています。

吟剣詩舞とは、歴史の物語、漢詩、和歌などを吟ずる（歌う）ことから始まり、武士が刀で舞う剣舞、刀の代わりに扇で舞う詩舞となりました。

礼節、品位、気合の心を基本とし、詩の作者の心情を察して振りつけられています。歴史上の人物に思いを馳せながらのお稽古は、自然と熱も入り、楽しい一時です。

吟剣詩舞と聞くと、何かと取っ付きにくいイメージがあるかもしれませんが、近年は、古典ばかりではなく、童謡、日本の懐メロ、ポピュラーな曲も取り入れて皆様に親しんでいただこうと創意工夫をしています。



◀尾西市民会館にて

【問合せ先】細井 淑子 ☎62-6650

私達会員は、日頃から野に咲く小さな草花にも眼を向け、また心を寄せます。五・七・五と指折り数えながら、その優しい風情を美しく表現しようと心を砕きます。春夏秋冬の佇まいの中に俳句のリズムをのせ、より良い句が出来る様に勉強を続けています。物を深く見て強く詠む、その心が明日の俳句につながるものと思います。そして、的確に我が意を表現、読む人にその情景がすんなりと心に響くとき、俳句を勉強中の私達にとってこれ以上の喜びはありません。まさに至福のときと申せましょう。

俳句とは、本来事柄に対して、自己の思いを表現する文学と言われていました。私も十七音節という制約のある短詩形の中で、一つの世界を描き出そうと今日も手帳と鉛筆を懐に皆さんと共に楽しく俳句づくりに励んでいます。

俳句と言えば、すぐに思い出すものが、松尾芭蕉の「奥の細道」です。芭蕉が結びの地を目指して東京浅草の芭蕉庵を出発し、その折に残した俳句が今も読まれています。

「行春や鳥啼魚の目は泪」

私達市井の者とはくらぶべくもありません。先人の足跡を見つめるばかりです。

私達も毎年「俳句吟行会」に参加し、俳句作りに名所旧跡を訪ねて廻ります。吟行に出掛けただけの場合、会員の大抵が同じ物を見て作句している筈ですが、同じ事柄の句は全く出てきません。それほど俳句は各々個性の表れるものです。

俳句を始めてみようと思っている皆さん、私達と一緒に俳句作りに出掛けてみませんか。



▶新年句会記念

【問合せ先】平川 節雄 ☎89-3753

文化情報



「早春図」 森 昭夫

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館
 ☎(46)3215

企画展「お釈迦さまのものがたり
 ～涅槃図から読本・草双紙まで～」

日時 ● 4月25日(土)～5月31日(日)

午前9時30分～午後5時
 (入館は午後4時30分まで、
 月曜休館、以下同じ)

内容 ● 一宮市域に伝わる涅槃図を
 始め、釈尊にまつわる絵巻

観覧料 ● 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

市内小中生・65歳以上無
 料 (以下同じ)

や版本を展示し、日本で培
 われてきた釈尊の姿を紹介。

企画展「茶の湯の浸透」

日時 ● 6月20日(土)～7月26日(日)

午前9時30分～午後5時

内容 ● 江戸時代中・後期に村で行
 われていた茶の湯にスポット
 をあて、村で生きる人々
 の文化展開の一端を紹介。

三岸節子記念美術館

☎(63)2892

常設展「三岸節子 花・香る」

日時 ● 4月7日(火)～5月10日(日)

午前9時～午後5時(入館
 は午後4時30分まで、月曜
 休館、以下同じ)

内容 ● 三岸節子にとって花は、特
 別な存在でした。その多様
 な美を持つ花を描いた数々
 の作品を展示。

観覧料 ● 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

市内小中生・65歳以上無
 料

特別展「芥川紗織展」

日時 ● 5月16日(土)～6月21日(日)

午前9時～午後5時

内容 ● 大胆でユニークな画題を鮮
 やかな染色で表現した作者
 の作品群を回顧した展覧会。
 その代表作と併せ、共に活
 動した「制作者懇談会」の
 メンバーや同時代の女性画
 家の作品も展示。

観覧料 ● 一般 500円

高大生 300円

小中生 200円

市内小中生・65歳以上無
 料

その他 ● 関連行事として講演会、
 展示説明会を予定。

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

歴史講座

「美濃路探訪く春・尾張編」

日時 ● ①5月10日(日)

午後1時30分～3時

②5月24日(日)

午前9時～午後4時30分

内容 ● 江戸時代の主要街道美濃路
 について、歴史と現在の様
 子を現地実習で学ぶ講座。

申込み ● 応募期間中に資料館へ直
 接、または八ガキにて申
 込み。

(市広報でお知らせしま
 す。)



『第2回藤乃会演奏会〜春に誘われて〜』

【問合せ先 藤乃会尾西教室】
 ☎72-18327
 日時▼4月12日(日) 午後1時〜
 会場▼尾西グリーンプラザ
 内容▼箏の演奏発表会
 入場料▼無料

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】
 ☎72-17690
 日時▼4月12日(土)・5月10日(土)・
 6月14日(土) 午後1時〜
 会場▼葉栗公民館
 内容▼各自10句持参、互選により
 優秀作を記録に残します。
 (初心者歓迎)
 参加料▼無料

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】
 ☎72-16606
 日時▼4月12日(日)・6月14日(日)
 午後1時〜
 会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作
 指導します。(初心者歓迎)
 参加料▼無料
 申込み▼当日直接会場

『春の市民短歌吟行会』

日時▼5月12日(火) 午前9時〜
 行先▼なばなの里他
 対象▼どなたでも
 参加料▼2500円(食事つき)
 申込み▼4月20日までに事務局
 (☎84-10013)へ連絡

『サロンコンサート』

【問合せ先 一宮音楽家協会】
 ☎87-12827
 日時▼4月19日(日) 午前11時〜
 会場▼一宮スポーツ文化センター
 内容▼一宮音楽家協会会員による
 演奏会
 入場料▼無料

『石刀まつり』

【問合せ先 一宮民俗芸能連盟】
 ☎73-15221
 日程▼4月19日(日)
 会場▼石刀神社(今伊勢町馬寄)
 内容▼山車からくり・献馬

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】
 ☎73-15504
 日時▼4月26日(日)・5月24日(日)・
 6月28日(日) 午後1時〜
 会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼当季雑詠3句を一宮市民俳
 句教室委員が指導します。
 (初心者歓迎)

参加料▼無料
 申込み▼当日直接会場

『春の市民俳句吟行会』

日時▼5月19日(火)午前9時〜
 行先▼岡崎城他
 対象▼どなたでも
 参加料▼2000円(食事つき)
 申込み▼事前に事務局
 (☎84-10013)へ連絡

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】
 ☎45-18045
 日時▼4月26日(日)・5月24日(日)・
 6月28日(日) 午後1時〜
 会場▼一宮スポーツ文化センター
 内容▼自由吟および課題吟を一宮
 川柳社委員が指導します。
 (初心者歓迎)

参加料▼無料
 申込み▼当日直接会場

『第3回一宮新総合美術展』

【問合せ先 生涯学習課】
 ☎84-10013
 日時▼6月4日(木)〜7日(日)
 午前10時〜午後5時(7日
 は午後4時30分まで)
 会場▼一宮スポーツ文化センター
 内容▼日本画、洋画、彫刻・立体、
 工芸、デザイン、書、写真

の作品展示
 入場料▼無料

『第18回こま希久会日本舞踊発表会』

【問合せ先 一宮舞踊協会 花柳流
 こま希久会】 ☎45-15498
 日時▼6月7日(日)午前11時〜
 会場▼一宮市民会館
 入場料▼無料

『レインボーコンサート』

【問合せ先 一宮市民吹奏楽団】
 ☎43-10737
 日時▼6月21日(日)午後1時30分〜
 会場▼一宮市民会館
 入場料▼500円 前売400円

『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体のイベント情報を募集します。

発行月3・6・9・12月の前月1日までに、必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項 ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先 〒493-8511 一宮市芸術文化協会事務局(住所不要)
 または FAX 0586-86-1809

平成20年の展示をみる

一宮市博物館

一宮市博物館では、本年度も市民の皆様幅広く美術、歴史の研究の成果をご覧いただけるよう多彩な展覧会を開催いたしました。いくつかの展覧会を振り返ってみたいと思います。

いまあざやかに 丸井金猥展

4月26日～6月1日

丸井金猥は一宮市北方町で生まれ、戦前に西洋とエジプト、アジアの影響を混ぜ合わせたような独自の画風を確立した日本画家でした。東京美術学校で教鞭をとり、その後は神奈川県立神奈川工業高校でデザイン科を育て上げました。

知られざる画家丸井金猥氏の作品64点を初めて展観することにより、丸井金猥を、その独特の作品を地元の方々にご覧いただきました。



土と炎の芸術

7月5日～8月3日

日本、東南アジア、南アジア、西アジア、中国、南アメリカなどの土器165点を、所蔵する愛知県陶磁資料館から借用展示しました。日本の縄文時代から古墳時代の土器と同時期の世界の持つ魅力について思いを馳せていただきました。

2008 一宮美術作家新展

8月30日～9月15日



一宮美術作家協会49人の会員の皆さんが、最新の発想・イメージをもとに制作された作品63点が展示されました。館内から中庭にかけての会場には、作家の思いが込められた作品が並び、

個性豊かな作風を皆さん楽しんでいただきました。

一宮写真協会選抜写真展

9月18日～9月28日

一宮市写真協会の会員30人が「伝えたい 今日から 明日へ。」を今年度のテーマとして作品51点を展示されました。人、動物、植物、そして自然との出会いを来館者の皆さんにも喜んでいただきました。

一宮三八市のにぎわい

10月11日～11月24日



かつて一宮には、「三八市」という市場がありました。三八市は、江戸時代、享保12年（1727）以来真清田神社の門前で行われ、織物関係商品や生活必需品などの商いでたいへん賑わいました。今回の展覧会では、三八市での商品の流通、生産などの歴史の一端を紹介し、周辺の苧安賀、起などの村々で開催

されていた市も含め、市の機能について、またこれからの一宮を考える一助となるよう企画し、皆さんにご覧いただきました。

2008 一宮市現代作家美術秀選展

12月1日～12月21日

第66回一宮市美術展の成果等をうけて、一宮市美術展での各部門の依頼出品者と市長賞受賞者、ならびに各協会からの推薦者の作品、あわせて77点を展示いたしました。この展覧会は、今回が8回目となりますが、今回、美術を愛好する市民の皆さんが作家各氏の美術文化作品の精華を再認識するとともに、一宮におけるより一層の美術や文化の振興発展に大きく寄与しています。



[題字] 武山翠屋
[編集・発行] 一宮市芸術文化協会

[連絡先] 一宮市芸術文化協会事務局（市教育委員会生涯学習課内）
〒493-8511 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り27番地
TEL 0586-84-0013 / FAX 0586-86-1809